

## 感謝の気持ちを込めて 母の日プレゼント教室

5月8日、久米島紬ユイマール館にて母の日プレゼントづくり(主催町教育委員会)「しぼり染め教室」が開催されました。参加した園児・児童22人は、日頃愛情をたっぷり注いでくれるお母さんへの感謝の気持ちを込めて、島の草木染めを用いた「ハンダナ」と「ストール」を作り上げました。世界に1つしかないオリジナルの作品仕上がり、子ども達の心のこもった母の日のプレゼントとなりました。



## キッチンカー「青空キッチン」始動

### 地産地消の仕組みづくりを目指して

5月11日、キッチンカー「青空キッチン(過疎地域等自立活性化推進交付金)」の出発式を行いました。町では、集落支援員の活動として、島内で生産されるが流通にのらない野菜を集約し島内外に販売する体制を構築することを目的とした地産地消推進事業を推進しています。その中で、更なる地域内消費向上と高齢者の見守り環境の構築を含めた新しいツールとしてキッチンカーを導入しました。キッチンカーは毎週火～木曜日、商工会駐車場にてカット野菜やお惣菜などを販売する予定です。



## 久米島について学ぶ

### まちづくりプロジェクト

5月12日に、久米島高校にて、総合的な探求の時間まちづくりプロジェクト「久米島について学ぶ」授業が行われました。そらなみ保育園系数剛園長による「健康と福祉」、地域おこし協力隊の黒木恭子さんによる「サンゴ保全と地域資源」、同協力隊の加藤千加子さんによる「観光と経済」をテーマに、SDGsの観点も踏まえ、それぞれ授業を行いました。「観光と経済」では、経済の発展のために観光が活性化して欲しいという生徒たちの思いをスタートに、来年寄港予定のフランスのクルーズ船についてなど、久米島の未来観光と持続可能性に意識を向けました。



## 福祉事業に役立てて

### 久米建設が社協へ寄付

久米建設株式会社(宇祿弘代表取締役社長)は5月14日、町社会福祉協議会を訪れ、創立50周年記念事業として「町の福祉事業に役立ててほしい」と寄付贈呈を行いました。久米建設は、毎年福祉事業への貢献を目的に、町社会福祉協議会へ寄付をしています。大田喜功会長は「必要としている方に活用していき、社会福祉を向上していきたい」とお礼を述べました。今年で50周年となる久米建設から町社会福祉協議会へ1,000,000円の寄付金が贈呈されました。

